兄のこころの光、少女のきらめき。

三人が歩いた線路の向こう側に
未来があった―

ぼくは決して忘れない

リー・チーシアン 監督作品

1978年冬。

西幹道

2007年東京国際映画祭コンペティション部門審査員特別賞受賞

ロッテルダム国際映画祭正式出品／エジンバラ国際映画祭正式出品／マンハイム・ハイデルベルグ国際映画祭正式出品／光州国際映画祭正式出品／フリブール国際映画祭正式出品／シンガポール国際映画祭正式出品

製作総指揮：ヤン・ブーティン（楊步亭）、多井久晃／監督：リー・チーシアン（李繼賢）／脚本：リー・チーシアン（李繼賢）、リー・ウェイ（李微）
撮影：ワン・ユー（王昱）／美術：チュエン・ロンシャー（屯樂哲）／録音：リー・シュエレイ（李学雷）
出演：チャン・トンファン（張登峰）、リー・チエ（李傑）、シェン・ナニー（沈佳妮）
製作：中国電影集団、株式会社ワコー／後援：中華人民共和国駐日本国大使館文化部／協力：マルマン株式会社
配給：ワコー、グアバ・グアポ／配給協力：フォーカスピクチャーズ／宣伝：グアバ・グアポ／宣伝協力：テレザ／ノヴェライズ：『1978年、冬。』（愛育社刊）
2007／日本・中国／中国語／35mm／カラー／1:1.85／ドルビーSR／101分／原題：西幹道／英題：The Western Trunk Line／字幕翻訳：田村祥子、大村 緑

©2007 China Film Group Corporation & Wako Company Limited. PG-12

www.1978-winter.com

あの冬の日、ぼくたちの心に確かに芽生えたもの——

映画『1978年、冬。』は、1978年の中国西北の地方都市・西幹道の家族を描き、とりわけ年の離れた兄弟の青春を切なく切り取った、2007年中国映画ナンバー1と言われる家族の物語である。

文化大革命の大混乱が終わりを告げた、1978年の冬。中国北部の小さな町、西幹道に住む兄弟の前に北京からひとりの少女が舞い降りた。
凍てつく灰色の風景のなかに、突如として鮮やかな空気を持ち込んだシュエン(雪雁)。
シュエンの踊る姿に、18歳の兄スーピン(四平)は恋をし、
11歳の弟ファントウ(方頭)は憧れを抱いた。ふたりが初めて抱く感情と、戸惑い。
その初めての気持ちが、居場所を失い、叔父の住む西幹道にたどり着いた少女の孤独と出会ったとき、
感情の大きなうねりとなって三人を飲み込んでいくのだった…。
中国が未来に期待し、過去の残像に揺れた空白の年、1978年。
三人にとっても忘れられない冬が始まろうとしていた——。

1978年、あなたは何をしていましたか?

日本では、キャンディーズが解散し、サザンオールスターズがデビュー、成田国際空港が開港し、サンシャイン60が完成した年。『未知との遭遇』『スター・ウォーズ』が相次いで公開されSF映画ブームの到来を告げた。8月12日には北京で日中平和友好条約が調印され、長く未知の国だった中国との国交が正式に回復した。

一方中国では、周恩来、毛沢東の死にともない10年に及んだ文化大革命が終焉し、鄧小平の路線が確立し始めた年。日本と、アメリカとも国交を回復して、小澤征爾が招かれ北京に初めてブラームスが流れた年でもある。階級闘争に明け暮れ、密告、不平分子の摘発が行われて人々が戦々恐々とした文革の時代が終わり、混沌としたぼんやりとした不安の中に、自由と希望の光が見えてきた年だった。

まさに、空前の経済発展、そして北京オリンピックへの道は、この年1978年からスタートしたと言えよう。

変わりゆく時代と、変わらない愛

本作の時代として設定された1978年は、毛沢東の死から2年後の、これから改革開放の時代にまさに踏み出さんとしている時期。

映画はそんな時代の、ファントウの人生を変える鮮烈な記憶を、少年の目を通して美しい冬の風景とともに繊細に描きだし、観る者の心を揺さぶっていく。『1978年、冬。』には、わたしたちが決して忘れることのない、幼い頃の記憶が幾層にも織り込まれているのだ。凍てつく冬空、少女が纏う鮮やかな衣装、兄の未来を乗せた列車、無口な父と子供思いの母の温かい手・・・。記憶は鮮明で、決して忘れることはない。さらには、変わりゆく時代と変わらない家族や他者への愛の普遍が静謐ななかに描き出されていく。

生まれいずることの歓びと哀しみが丹精に紡がれ、生きることの糧へと繋いでいく『1978年、冬。』。慈しむように心の中にしまっておきたい映画の誕生といえよう。

www.1978-winter.com

『1978年、冬。』は今回の大発見

第20回東京国際映画祭プログラミング・ディレクター 矢田部吉彦

映像がとても美しく、ちょっとざらついたリアルな映像というか、冬場のシーンが多いので少し気温が低いような、寒色の印象が残る作品です。(中略)2000年代に入ってから中国のインディペンデントのドキュメンタリー映画が世界的に注目されていますが、中国の現実をかなり淡々とリアルに写すという流れがあり、完全にそれをふまえた、その後に出てきた作品だと感じる作品です。軸は家族の物語なので、日頃映画を見ない人の心にも響くと思います。蛇足ながら加えておくと中国映画の基本、食事のシーンが多く、非常においしそう。一つ一つのシーンが愛すべき、非常に繊細で美しい作品。今の中国映画の一番いいところが見られる作品だと思います。

(第20回東京国際映画祭"TIFF DAILY NEWS"10月26日号より抜粋)

製作総指揮:ヤン・ブーティン(楊步亭)、多井久晃/監督:リー・チーシアン(李繼賢)/脚本:リー・チーシアン(李繼賢)、リー・ウェイ(李薇)
撮影:ワン・ユー(王昱)/美術:チュエン・ロンシャー(全榮哲)/録音:リー・シュエレイ(李学雷)
出演:チャン・トンフテン(張登峰)、リー・チエ(李傑)、シェン・チアニー(沈佳妮)
2007/日本・中国/中国語/35mm/カラー/1:1.85/ドルビーSR/101分/原題:西幹道/英題:The Western Trunk Line
字幕翻訳:田村祥子、大村 緑 ©2007 China Film Group Corporation & Wako Company Limited.
製作:中国電影集団、株式会社ワコー/後援:中華人民共和国駐日本国大使館文化部/協力:マルマン株式会社
配給:ワコー、グアパ・グアポ/配給協力:フォーカスピクチャーズ/宣伝:グアパ・グアポ/宣伝協力:テレザ/ノヴェライズ:『1978年、冬。』(愛育社刊)

NPO松本CINEMAセレクト上映会　10月25日(土)　会場　エンギザ　21時〜

特別割引ご案内　「1978年生まれ」の方は当日料金1000円にてご鑑賞できます。免許証など生年月日が証明できる物を受付にてご提示下さい。(前売券購入の方には差額は払い戻しできません)

前売券1400円(エンギザ/カタクラモール/ラスティック/エオンタ/信大生協などで発売中。)
当日券　一般 1800円　大・高生 1400円　セレクトメンバー 一般 1200円　学生 1000円
問ー松本CINEMAセレクト　0263−98−4928　http://www.cinema-select.com/　携帯 http://www.cinema-select.com/i/